

第3回 秋田市エイジフレンドリーシティ行動計画推進委員会 議事録

日 時：平成27年2月10日（火） 15時～17時
場 所：秋田市役所議場棟第2委員会室
委員の定数：13人
出席委員：13人

- 1 開会
- 2 委員紹介
- 3 議事

(1) エイジフレンドリー指標の設定について

資料1、2、3をもとに、事務局から説明を行った。

委 員 長	ただいま事務局からエイジフレンドリー指標についてご説明いただいたが、ご意見ご質問はないか。
委 員	先日、新聞でプラチナタウン研究会の記事を見たが、CCRCに関しては理解できるが多かった。また、多くの高齢者にとって「ピンピンコロリ」が理想であろう。 今回の指標設定の結果により市民意識が向上していけばよいと思うので、カタカナ文字は少なめにしてもらいたい。 各NPO団体が様々な活動をしているので、どのように連携を図るかを聞きたい。
事 務 局	プラチナタウン研究会のことについて補足しておく。プラチナタウン研究会は、秋田銀行が始めたもので、東京大学高齢社会総合研究機構、三菱総研、秋田県内の大学、民間企業が会員となり、自治体（県・市）がオブザーバーとして入り、日本版CCRCを研究するための研究会である。 アメリカのCCRCとは性質が異なり、日本の場合は、住み慣れた地域の中で、高齢者の生活を維持していくことが可能かどうかを考えていかなければいけないだろう。 こうした民間の動きの中で、異業種の連携により新たなビジネスモデルが展開できるのではないかと考えている。 ピンピンコロリに関しては、指標の設定の中で健康づくりや健康維持、健康寿命を延ばすことに力を入れていきたい。また同時に、健康でなくてもその人の自己実現を図ることができる社会を考えていく必要がある。
委 員	中核指標の指標案の中に「③地域とのつながりがあると感じている人の割合」とあるが、「高齢者の割合」としないのは何故か。
事 務 局	②の指標案「秋田市はあらゆる世代にとって住みやすいまちで

		あると感じている人の割合」と③の指標案は高齢者に限定していない。持続可能な社会でなければならないだろうという考えに基づき、世代を超えて、高齢者と若い人が地域のつながりを実感できる社会になるためにこのような表記にした。
委 員	員	②は理解できるが、③に関しては、高齢者の社会参加をうたっているのであれば、「高齢者の割合」とした方がよいのではないか。
委 員	員	資料の記述について、資料1のP3の11行目「高齢になっても地域社会で活動、活躍することができ、いきいきと過ごすことのできる社会」の部分は、中核指標ではなく、基本理念の誤りではないか。 それから、資料の中に、「大指標」「中指標」という言葉と「中核指標」という言葉が混在していて、市民にはわかりにくい。 今回の資料を見て、委員会の役割やめざすものが見えてきたと感じた。
事 務 局	局	ご指摘の通り。資料1については修正加筆する。中位の指標、中核指標などは、統一したい。
委 員	員	基本方針4に「高齢者の社会参加を図る」とあるが、現実とは異なる。町内会の役員を決めるとなると、引き受け手がいない、奥さんまかせというのが実情である。まずは高齢者が地域に貢献する「方法」を考えなければならないだろう。
委 員	員	一番身近な町内会など地域の意志決定への参加について、客観的な指標にできないものか。
委 員	員	私も長く町内会長をやっているが、私の地域の実情も同じである。お祭りなどの機会を捉えて、人とのつながりを持とうと心がけている。前職や前歴にこだわらず、何とか出てきてもらっている。
委 員 長	長	町内会の存続の問題は、切実だと感じている。
事 務 局	局	WHOの指標も参考にしながら、委員から出された地域の意志決定への参加について、秋田市独自の指標として使えるデータがないか探っていきたい。 町内会活動だけでなく、日頃のお互いの助け合い、地域のお祭りなど全てにつながっていくと考えていくと、そこに住んでいる住民が自分たちの地域の課題を自分たちで解決するためにはどのように動いていけばよいのか、どのような施策をすれば指標の数値が上がっていくのかを可視化できればよいと考えている。

委 員	<p>基本方針の中の社会参加と市民参加は混乱することがある。</p> <p>市民がどのように地域に関わっていくかを考えた時に、これまで秋田市では市民協働の取組がある。各市民サービスセンターでの高齢者の関わりも指標になるのではないか。</p>
委 員	<p>エイジフレンドリーシティの取組は多岐にわたり、全てを網羅して指標設定をするのは難しいということに関しては、その通りだと思う。</p> <p>中核指標については、自己実現が大きなテーマで、健康、安全安心、経済的安定がその前提条件となっており、絞り込まれていて一定の方向付けがなされている。しかし、市民が生活している実感として、自己実現だけでなく、健康や安全安心、経済的安定も同レベルで重要だという意見を持つ人も多くいるのではないか。したがって、中核指標を構成する要素や方向性を、この場で議論しなくてよいのか。</p>
委 員	<p>高齢者の生活を日常と非日常に分けて捉えていけるだろう。はじめに「ことづくり（ソフト）」の指標を作って観察し、それをサポートする「ものづくり（ハード）」にシフトしてみてもどうか。</p> <p>また、指標は高齢者の増加による社会状況の問題や人口減少などに対応するものになるとよい。</p> <p>高齢者の退職後のことなのか、もう少し延長して働く仕組みになっていくのかもかわってくるだろう。</p>
委 員	<p>高齢者だけでなく、若者も含めた皆が愛せる秋田市になるかが鍵となる。まちが魅力的でないと社会参加しないだろう。秋田市には高齢者が参加できる魅力あるものが少ない。まずは、高齢者が楽しいことに参加できる機会や、車以外の交通網を整えるまちづくりを進めてほしい。</p>
委 員	<p>中核指標のキーワードは、その人が置かれた立場によって捉え方が異なるだろう。私は医療や福祉にかかわっているので、事務局から出された案は理解できる。</p> <p>第1群では、指標や指標案といった言葉が混在しているので、理解しづらい。</p>
委 員 長	<p>例えば認知症や高齢者詐欺を考えると、いまの高齢者は安全安心や経済的安定がおびやかされている状態に置かれていることも多い。そういう意味で、健康、安全安心、経済的安定も自己実現と同等の重要度と考え、それぞれが充実していくと自己実現につながるという認識が現実合っているのではないか。</p>
委 員	<p>私は、安全安心や健康がここにあるということではなく、自己実現が単独であるのではなく、エイジフレンドリーを推進する活</p>

動の結果によってこれらが確保されると理解した。

それから、気がついたことだが、中核指標の指標案の②にだけ「秋田市」が付くのは違和感がある。アンケートの聞き方だが、その人によって感じ方が異なり難しいと感じる。

基本方針5の指標案「教育で福祉や高齢者について学ぶ機会」の部分は、教育ではなく、「学校」と具体的に書いた方が良いのではないか。

委員 WHOの指標に「重要な政治、経済、社会問題における意志決定に携わっていると回答した高齢者比率」とあるが、ここまできなくとも、地域活動や自治会活動に参加したり、自ら活動した人がどれくらいいるかという指標を入れられると良いだろう。

委員 今回アウトプットとアウトカムに分けられているのは良いと思うが、アウトカム指標がアウトカム指標らしくない。主観定義と書かれている「社会活動に参加した高齢者の割合」はアウトプットの的なものであり、アウトカム指標としては「満足していると感じている高齢者の割合」まで踏み込んだ方が良い。アンケート調査では、行われている事業に対して高齢者がどのように感じているか（アウトカム指標）をもっと盛り込んでみてはどうか。

委員長 指標に関して様々な意見を出していただいたので、事務局で参考にしていただきたい。

(2) 平成27年度以降の取組について

資料4をもとに、事務局から説明を行った。

委員長 事務局から平成27年度以降のエイジフレンドリーシティの取組について説明をいただいたが、ご質問ご意見はないか。

委員 特になし。

(3) 「秋田市エイジフレンドリーシティ行動計画ー市民中心の行動計画ー」進捗状況について

資料5をもとに、事務局から説明を行った。

委員長 ただいま事務局から市民中心の行動計画の進捗状況についてご説明いただいたが、エイジフレンドリーあきた市民の会会長を務める委員からご説明があればお願いしたい。

委員 この委員会に出席されている大学の先生にお願いしたい。来年

度10月3日(土)に思いやりコンテストを行う予定にしている。いろいろな世代が参加しているが、大学生の参加がこれまでなかったので、大学のゼミやサークルなどで、大学生がエイジフレンドリーの活動紹介やボランティアと参加していただけるとありがたい。

また、委員が取り組んでいる町内会活動のブースも可能である。今回の委員会のネットワークを大切にしたいと思う。

(4) その他

事務局から、今後の作業について説明を行った。

委 員 長	委員からその他として何かあるか。
委 員	先ほどの委員の話に関連して、商店街連盟が主催している「タウンスクール(町の寺子屋)」を紹介しておく。知識を得て賢い消費者になっていただきたい。
委 員	そういった情報はどこで手に入ればよいのか。
委 員	商工会議所が新聞チラシを配っている。来年は新聞記事や広報でお知らせしたい。問合せは商工会議所が窓口になっている。
委 員	議事(2)の平成27年度以降の取組についてだが、「民間による取組の推進」に重点を置くべきだと考える。エイジフレンドリーの取組は市役所だけでは進まない。市民、企業、事業者が一緒になってやっていく中で、企業や事業者との連携は特に重要である。 従来、企業は直接的な利益がなければ活動しなかったが、時代が変わり、特に公共性の高い企業は、地域にどれだけ貢献するかといった視点で計画や事業を進めていて、経営者の認識も変わってきている。エイジフレンドリーパートナーとして企業に積極的に協力を求めていけば効果的である。特にエイジフレンドリーを知ってもらおう広報活動や、人・モノ・金など様々な支援を得ることができるだろう。 エイジフレンドリーシティの推進について、知恵を出し、試行錯誤しながら考える、多少の失敗があったとしても前に進むという姿勢が大切だろう。市民に評価していただけるよう、職員の頑張りに期待したい。
委 員	本日いただいたご意見を参考にしながら、職員一同しっかりと進めていきたい。引き続きよろしくお願ひしたい。
委 員	先ほどの委員の意見の中に、NPOの活動も入れていただきたい。秋田銀行の職員有志が募った募金を高齢社会のために活動

		する団体に助成する動きもあるので紹介しておく。
委 員	員	情報はオープンにして、企業間の公平性には気をつけてほしい。
委 員	員	2つ気がついたことを述べる。1つ目は、異業種交流による新しいビジネスモデルといった活動が自然発生的に盛り上がるとよいと思った。 もう1つは、高齢者は退職するとそれまでの立場が一度リセットされるので、その後の高齢者を自営業化すると企業やNPOのネットワークとの連携が生まれるのではないかと感じた。
事 務 局	局	大々的な研究会でなくても、普段顔を合わせる機会のない人達がお互いの課題や人口減少などのさりげない切り口で話をする中で新しい連携が生まれると良い。ただ、行政はどこどこを連携したらよいかのアイデアがないので、日頃活動の中で気がついたことがあれば事務局にお知らせいただきたい。 また、高齢者の自営業化の話があったが、来年度の高齢者のコミュニティ活動支援の中で、コミュニティビジネスが生まれるきっかけづくりを進めたいので、本日のご意見を参考にして取り組みたい。
委 員 長	長	本日は貴重な意見が多く出たので、感謝申し上げたい。これで議事全てを終了する。

事務連絡

次回の委員会は3月下旬を予定している。

4 閉会